

資料 5. 工事区分表（参考）

一般的な工事区分表を下記表に示す。なお、一般的な工事区分表となるため、今回の事業計画において該当しない項目も含まれていることには留意すること。

また、下記工事区分を原則とするが、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

（凡例）今回の施工業者（建＝建築事業者（建築）、設＝建築事業者（設備）、電＝建築事業者（電気）、炉＝火葬炉設備事業者）

項 目	炉	建築	設備	電気	備 考
1. 炉、機械関係					参照：P 1 2～P 1 5
・ 炉設備の搬入組立	○				
・ 排気筒出口雨仕舞	○				排気筒設置後の防水処理、水切りフード
・ 炉機械基礎、H鋼埋め込み		○			H鋼天端 F L-2～0mm 精度
・ ピット、ピットカバー		○			配管・配線用、仕上げ含む
・ 床、壁面の切り込み開口、貫通スリーブ		○			煙道ダクト、配管・配線用
・ 同上周囲補強		○			
・ 開口部の養生プレート		○			炉工事開始までの開口塞ぎ（排気筒出口含む）
・ 搬入通路、搬入口、搬入ステージ		○			地盤養生、搬入部足場解体
・ 炉設備用の吊りフック、ホイスト		○			吊りフック荷重 3 ton／本
2. 地下タンク、サービスタンク関係					参照：P 1 1、1 6
・ 送油装置	○				サービスタンクから各炉への送油用設備 装置への電気配管・配線、及び燃料配管も含む
・ 防油堤、溜めマス		○			
・ 地下タンク基礎		○	○		
・ 地下タンク缶体、タンク付属品			○		
・ 液面計電気配管、配線			○		
・ サービスタンク缶体、付属品	○				
・ 給油装置			○		地下タンクからサービスタンクへの給油用設備 装置への電気配管・配線、及び燃料配管も含む
・ 消防標識	○		○		

項	目	炉	建築	設備	電気	備	考
3.	ガス設備機器						
3-1.	都市ガス13A						
	・炉廻りガス配管、ガス機器						
	・ガスガバナー設備						
	・ガスメイン配管						
3-2.	LPG						
	・炉廻りガス配管、ガス機器						
	・LPG供給設備						
	・ガスメイン配管						

4.	炉前化粧扉関係					参照：P21～P22
	・化粧扉（自動ドア）		○			エンジン、操作盤、スイッチ、接続、三方枠共
	・使用中表示名札、炉番号表示板		○			
	・自動ドアへの電源供給及びスイッチへの電気配管・配線				○	
	・炉前装飾表示灯				○	
	・防火戸閉鎖装置（火報連動）				○	各機器間の配管・配線・接続

5.	モニターテレビ関係					玄関、炉前ホール、排気筒他 参照：P25
	・電気配管				○	埋設配管含む
	・電気配線				○	
	・カメラ設置、調整				○	
	・モニターテレビ盤（監視盤）				○	監視室、事務室

項 目	炉	建築	設備	電気	
9. 運営支援システム関係					※火葬炉設備工事の場合
9-1. 予約システム					
・予約システム 設備機器	○				
・予約システム 電話配線				○	
・インターネット申し込み				○	要打合せ
9-2. 案内表示システム					
・表示器 設備機器	○				パソコン含む
・表示器用躯体箱抜き		○			
・表示器及び付属機器への				○	埋設配管
・同上機器への信号用電気配線				○	LAN配線
・同上機器への電源供給				○	100V
9-3. 遺骨誤認防止システム					
・システム・センサー機器					
・センサー埋込時の躯体処理					
・システム・センサー機器用					
・同上機器への電気配線					
・同上機器への電源供給					
10. その他					
・官庁申請・届出	○	○	○	○	
・消火設備		○	○		

〔２〕 炉設備に直接必要な場所、部屋

炉設備に直接必要な場所、部屋の一般的な仕様において下記に示す。

提案書作成にあたっては、下記を参考としたうえで、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

仕上げの下：モルタル仕上げ程度

中：通常の事務所の仕上げ程度

上：石張り等高級仕上げ 天：防音：吸着材仕上げ

無：吸音材無し、天井張りをしない

*□：炉の設備に含むこともある

*◇：設備、電気等も共存することもある

場 所 名	使用目的	寸 法(例)	仕 上(例)	区 分	参照
* 外 部					
地下タンク設置場所	燃料の貯蔵	5 ton で 3 × 6 m		設備	P 1 1
* 内 部					
作業(炉)室	炉、前室設置炉の操作 天井高（梁下）	4 + 1 炉で 1 3 . 5 × 9 m 5 m	床：防塵塗料 天：防音 壁：防音	炉	P 1 2 1 3
排気装置室 （通常 2 階）	排気ファン煙道設置 天井高	4 + 1 炉で 1 3 . 5 × 9 m 8 ～ 1 0 m	床：下 天：無 or 防音 壁：下 or 防音	炉 *□	P 1 4 1 5
ポンプ室	燃料ポンプ、サービスタンク設置	2 × 4 m	床：下 天：無 壁：下	炉 *□	P 1 6
中央監視室	運転状態の監視	4 + 1 炉で 5 × 4 m	床：中 天：中 壁：中	炉 *□	P 1 7
残灰装置室	残灰吸引機の設置	3 . 5 × 4 . 5 m	床：中 天：無、 天井張りしない 壁：下	炉	P 1 8

〔 3 〕 炉設備に密接な関連場所、関連部屋

炉設備に密接な関連場所、関連部屋の一般的な仕様において下記に示す。

提案書作成にあたっては、下記を参考としたうえで、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

場 所 名	使用目的	寸 法(例)	仕 上(例)	区 分	参照
* 内部－作業室側					
作業員室	休憩、トイレ、浴室、湯沸かし洗濯	4 + 1 炉で 4.5 × 9 m	床：中 天：中 壁：中		P 1 8
倉 庫	工具、予備品置場	4 + 1 炉で 3.5 × 4.5 m	床：下 天：無 壁：下		P 1 8
階 段	2 階へ昇降		床： 天： 壁：		P 1 8
台車清掃室 (前室清掃の場合は不要)	炉内台車の清掃	4 + 1 炉で 4.5 × 6.5 m	床：下 天：無 壁：下	炉	P 1 9
予備台車置場 (オプション)	予備台車置場台車整備	2 台で 4.5 × 4.5 m	床：下 天：無 壁：下		P 1 9
非常発電室	発電機設置	4 + 1 炉で 4.5 × 4.5 m	床：下 天：防音 壁：防音	電気 *口	P 2 0
電 気 室	受電、分電盤の設置		床： 天：壁：	電気	P 2 1
* 内部－ホール側					
炉前ホール	炉前スペース 運搬車運転	4 + 1 炉で 11.5 × 5 m	床：上 天：上 壁：上	化粧扉、電気 *口	P 2 1 ～ 2 2
告別 ・ 収骨室	収骨	1 室で 4.5 × 5 m	床：上 天：上 壁：上	炉	P 2 3
玄関ホール	霊柩車から 運搬車に転載		床：上 天：上 壁：上	炉	P 2 4
車 寄 せ	霊柩車から 運搬車に転載			炉、葬儀社	P 2 4

※電動台車動線上の通路、部屋の床については、電動台車の接地荷重対応も確認すること。

〔４〕 炉に関連する建築関係の設備、電気、場所

炉設備に関連する建築関係の設備、電気、場所の一般的な仕様において下記に示す。

提案書作成にあたっては、下記を参考としたうえで、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

設 備 名	使 用 目 的	区 分	参 照
モニターカメラ	モニター箇所 ：玄関 告別室 炉前ホール収骨室 排気筒	電気	P 2 5
電源供給	供給箇所 ： 2 階排気装置室 中央監視室	電気、炉	
換気、空調	換気、空調 ： 告別室 炉前ホール収骨室	設備、炉	
	換 気 ： 作業室 残灰装置室 2 階排気装置室 ポンプ室 発電機室	設備、炉	
燃料供給	地下タンクよりポンプ室まで	設備 *D	
残 灰 庫	収骨後の残灰の置き場 4 + 1 炉で 4 × 2 m (通常別棟)		P 2 5

〔５〕建築設計、建築と炉設備の取り合いで発生しやすいトラブル

建築設計、建築と火葬炉設備取り合いで発生しやすいトラブルの一般的な内容において下記に示す。

提案書作成にあたっては、下記を参考としたうえで、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

※ トラブル防止のため、できるだけ建築基準設計で考慮すること。

場所名	トラブル内容	参照
* 外部		
地下タンク設置場所	炉設備に含んだ場合 ・ 建築工程とタンク基礎、埋設配管の工程合わせ ・ 基礎業者の手配 ・ 液面計電気工事の手配 ・ 各地の消防により、行政指導が異なる。 ・ 乾燥砂	P 1 1
* 内部		
作業(炉)室	・ 下記が建築図に指示がない : スリーブ : 開口 : 基礎 : ピット : 吊りフック : 排気雨仕舞 ・ 炉の据付位置(ピッチ基準: 3,000)、余剰スペース ・ 搬入口の寸法 ・ 炉と大梁の位置、高さ ・ 仕上がり寸法の違い(図面違い、施工違い) ・ 炉前ホールとの段差* ・ 防音工事、床工事と炉工事との工程合わせ ・ 建築確認の際、炉設備の概要の有無 ・ 換気不足 ・ 各地の消防により、行政指導が異なる。 (防火設備) ・ 空調ダクトスペース	P 1 2 ~ 1 3
排気装置室 (通常2階)	・ 作業室と同様(*は除く) ・ 雨仕舞の工事範囲、排気筒高さ合わせ	P 1 4 ~ 1 5
ポンプ室 (ポンプ、タンク)	・ 各地の消防により、行政指導が異なる。 (防爆、別棟設置など)	P 1 6
中央監視室	・ 建築図に電気ピット、ピット蓋の指示がない ・ 電源供給位置の違い ・ 監視窓の高さ、監視盤の位置、炉番号	P 1 7
残灰装置室	・ 下記が建築図に指示がない : スリーブ : 開口(搬入) : ピット : 吊りフック : 基礎	P 1 8

場 所 名	ト ラ ブ ル 内 容	参 照
* 内部－作業室側		
作業員室	・ 取り合いはなし	P 1 8
倉庫	・ 取り合いはなし	P 1 8
階段	・ 取付位置	P 1 8
台車清掃室 (前室清掃の場合は不要)	・ 天井張りのため、残灰配管の点検不可(天井不要) ・ 搬入口の寸法、レベル	P 1 9
予備台車置き場 (オプション)	・ 搬入口の寸法、レベル	P 1 9
非常発電室	炉設備に含んだ場合 ・ 下記が建築図に指示がない ：スリーブ ；開口(搬入) ：ピット ；吊りフック；基礎 ・ 商用との切替装置の手配抜け ・ 換気不足	P 2 0
電気室	・ 電氣的な取り合い、容量	P 2 1
* 内部－ホール側		
炉前ホール	・ 搬送車の旋回スペース ・ 搬送車(棺、炉内台車転載時)の接地荷重確認 ・ 炉の据付ピッチ(基準ピッチ 3,000) ・ 化粧扉の開口寸法(基準 1,200 ^W ×1,800 ^H) ・ 化粧扉の開閉方向(危険防止のため横引きがよい) ・ 化粧扉とのレベル違い ・ 化粧扉と炉の電氣的取り合い ・ 照明不足(モニターTV：100Lx以上) 化粧扉を炉設備に含んだ場合 ・ 建築図に電気工事の指示漏れ(操作スイッチ、電源) ・ 建築との工程の取り合い ・ 建築との意匠合わせ ・ 化粧扉と建築仕上げの取り合い	P 2 1
告 別・収 骨 室	・ 搬送車の曲がりスペース ・ 収骨台の内寸法、仕上げ ・ 建築図に搬送車ガイド(炉設備)の取付考慮漏れ ・ 換気不足	P 2 3
玄関ホール	・ 搬送車の旋回スペース	P 2 4
車 寄 せ	・ 搬送車の旋回スペース ・ 大きい段差 ・ 霊柩車の向き	P 2 4

場 所 名	ト ラ ブ ル 内 容	参 照
* 火葬炉に関連する建築関係の電気、設備		
モニターカメラ	・屋上カメラの取付場所（逆光、視界） ・モニターＴＶの設置場所、設置方法 - テレビ関係電気工事を炉設備に含んだ場合 ・建築設計で埋設電線管工事の指示漏れ ・建築との工程合わせ	P 2 5
電源供給	・電気容量 ・電源供給場所	
換気、空調	・換気量、ガラの面積不足 ・換気場所 ・換気騒音	
燃料供給	・設備と炉の工事範囲 ・消防への届出	
残 灰 庫	・取り合いなし	P 2 5
* レイアウト		
部屋の位置	・作業員の作業性 ・配管、電気の保守点検性（天井内の燃料、 残灰配管） ・炉設備工事の作業性	
仮設用電源及び水について	・仮設用電源 ・仮設用水	P 2 5

〔6〕各場所、部屋、装置ごとの火葬炉設備に関する考慮事項

各場所、部屋、装置ごとの火葬炉設備に関する一般的な考慮事項において下記に示す。
提案書作成にあたっては、下記を参考としたうえで、建築事業者と火葬炉設備事業者間でも十分に調整すること。

（凡例）今回の施工業者（建＝建築事業者（建築）、設＝建築事業者（設備）、
電＝建築事業者（電気）、炉＝火葬炉設備事業者）

1. 地下タンク（灯油地下貯油槽）

（1）工事範囲

地下貯油槽の基礎土木工事は、建築工事にて施工するよう考慮すること。

基礎……………建	配管……………設
（乾燥砂含む）	
タンク缶体……設	電気……………設

（2）配 置

建築工事（足場、通路）とできるだけ干渉しないよう考慮すること。

（3）基 礎

配管、配線はできるだけピット（埋設ではなく）方式とすること。

（4）タンク仕様

容量……………	リットル	給油方法……………遠方ローリ
基準：給油回数 1 ～ 2 回/		

2. 炉 室

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として建築設計にて考慮すること。

(2) 炉 配 置

横ピッチ…………… (有効炉間寸法)	バグフィルター有	3,000～3,500mm
-----------------------	----------	---------------

縦長さ…………… 10,000mm (炉前化粧扉+前室+炉+作業場所)

炉室高さ (吊りフックにて施工) : 5,000mm (炉+点検スペース、吊りシロ)

(ホイスレールにて施工) : 5,500mm (炉+点検スペース、吊りシロ)

大梁は炉と炉の間にくるよう考慮すること。

※工場生産型炉 外形寸法

W 1,710mm×H 3,750mm×D 3,210mm

(下部主燃高さ1,950mm、上部再燃高さ1,800mm)

(3) 基 礎

基礎荷重、精度

: 炉 基 礎…………… m²あたり5ton程度

炉前ホールFL±0

: 炉以外の床…………… 3ton フォーク走行可能程度

炉前ホールFL±0

: 基礎H型鋼…………… H型鋼100mm×5本 基礎中に埋め込み

: ピット、ピット蓋…………… 作業室より中央監視室まで

幅400mm×深100mm

(4) 開 口

: 搬入口寸法…………… 幅3,000mm×高3,000mm (有効寸法)

シャッターまたは扉

: スリーブ、開口…………… 配管用、電気用、排気ダクト用

(5) 吊りフック設置

: 吊りフック…………… 炉据付メンテ用とし、荷重 3 ton/本×4 本/1 炉を天井に埋め込み

(6) 給気及び換気

- ・ 炉体及びダクト等からは放散熱があるため、夏場を考慮の上、炉必要空気量と合わせて換気量をご検討すること。
- ・ 夏場や夜間の換気不足のため、火災警報装置が作動することがないように考慮すること。（火災警報装置設定温度： 100℃以上）
 - : 作業室放熱……………通常 1 炉あたり 12,000Kcal/hr
- ・ 必要空気量は、通常全炉同時に最大に使用することはないが、75%以上は見込んでおく必要は有り。
- ・ 空気流入に際し、騒音等の外部への漏洩について留意すること。
 - : 必要空気量

炉内冷却時：1 炉当たり 1200 m ³ /hr	at 20℃
前室冷却時：1 炉当たり 200 m ³ /hr	at 20℃

(7) 仕上げ仕様

- : 床……………防塵塗料（清掃を考えて、つや有り）
- : 壁……………要部モルタル、その他は50mm厚防音材張り
- : 天井……………50mm厚防音材張り

(8) 電源供給

小規模火葬場で作業室に系列盤を設置した場合、電源供給すること。

3. 2階排気装置室

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) ファン、排気筒配置

ファン、排気ダクトが左右勝手反対構造とならないよう考慮すること。

(3) 基 礎

: 基礎荷重、精度

機械基礎…………… m^2 あたり 1.5 ton 程度

2階F L ± 0

(バグフィルターは基礎必要)

参考重量……………ファン: 1,500 kg/台

排気筒: 1,800 kg/基

バグフィルター: 10 ton/基

熱交換器: 1,200 kg/台

触媒装置: 1,000 kg/基

機械以外の床…………… m^2 あたり 1 ton 程度

2階F L ± 0

(4) 開 口

: 搬入寸法……………W 3,500 mm $\times$ H 3,500 mm シャッター
または扉

: スリーブ、開口……………配管用、電気用、排気ダクト用

(5) 常設搬入、組立設備

① 吊りフック……………機械据付時用及びメンテナンス用とし、
荷重3 ton/本用を埋め込み

② ホイストレール……………機械据付時用及びメンテナンス用

(6) 給気及び換気

- ・ 炉体及びダクト等からは放散熱があるため、夏場を考慮の上、炉の必要空気量と合わせて換気量を検討すること。
- ・ 夏場や夜間の換気不足のため、火災警報装置が作動することがないように考慮すること。

機械室(排ガス処理設備)	5,000Kcal/H
機械室(煙道、ダクト、排気筒等)	5,000Kcal/H

- ・ 必要空気量は、通常全炉同時に最大に使用することはないが、75%以上は見込んでおく必要あり。
- ・ 空気流入に際し、騒音等の外部への漏洩について留意すること。

： 炉必要空気量

排ガス at 200℃

排気冷却空気

通常1炉あたり 135 m³/min at 20℃ (例)

150 m³/min × 3 炉数

燃焼空気

通常1炉あたり 15 m³/min at 20℃ = 450 m³/min

(7) 仕上げ仕様

： 床……………モルタル

： 壁、天井……………要部モルタル、その他は50mm厚防音材張り

(8) 排気筒雨仕舞

SUS製の水切りスカート、防雨カバー(笠)を考慮すること。

(9) 電源供給

2階に系列盤を設置した場合、電源供給を願います。

4. 燃料ポンプ室

燃料がガスの場合、必要なし。

(燃料が灯油等の場合は危険物設置許可が必要な場合があるため、消防署との協議が必要。)

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) ポンプ室の配置

- ・ポンプ室は地下タンクに近く、作業室とは隣接するよう考慮すること。
- ・通常、サービスタnkがある場合は、ポンプ室に設置する。その場合、サービスタnk用ポンプも設置する。
- ・消防によっては、サービスタnk用ポンプは別棟にする必要がある。

(3) 基 礎

: 基礎荷重、精度

ポンプ基礎…………… m^2 あたり 0.5 ton 程度

作業室 F L ± 0

: ピット、ピット蓋……………ポンプ室より地下タンクまで

幅 300 mm $\times$ 深 150 mm

(配管及び警報用コンジットパイプ)

: 流出止め堰……………サービスタnkの容量以上 (外部への流出防止)

: 集油ピット……………流出した燃料の汲み上げ用

□ 300 mm $\times$ 深 300 mm

(4) 開 口

: 搬入寸法……………W 1,200 mm $\times$ H 1,800 mm 扉

: スリーブ、開口……………配管用、電気用、通気管用

(5) 換 気

防爆の換気扇を設置すること。

* 防爆仕様の必要有無は消防協議による。

(6) 仕上げ仕様

床……………モルタル

壁、天井……………モルタル

5. 中央監視（制御室）

（１）工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

（２）中央監視室の配置

- ・中央監視室は作業室と隣接し、全炉のバーナー面が見えるよう（ガラス向き）考慮すること。
- ・作業室側より中央盤面を観察できるよう（ガラス、向き）考慮すること。

（３）基 礎

：基礎荷重、精度

盤基礎…………… m^2 当たり 0.5 ton 程度

作業室 F L ± 0

：ピット、ピット蓋……………中央監視室より作業室まで、幅 400×深 100

（４）開 口

：搬入口寸法……………W 1,200×H 1,800 mm 扉

：スリーブ、開口……………電気用

（５）換 気

通常の事務室程度の換気、空調を考慮すること。

（６）仕上げ仕様

通常の事務室程度の仕上げを考慮すること。

（７）電源供給

系列盤を設置した場合、電源供給すること。

（８）高調波対策

負荷にインバーター等使用時、高調波ガイドライン対策が必要な場合、受電設備側で対応すること。

＊火葬炉設備で発生した高調波対策は、火葬炉制御盤にて対策設備を設置すること。

6. 残灰装置室

(1) 工事範囲

下記は炉工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) 残灰装置室の配置

残灰装置室は、作業室とは隣接し、外部より搬入できるよう考慮すること。

残灰装置室の高さは、5,000mm 以上確保すること。

(3) 基 礎

：基礎荷重、精度

集塵機基礎……………㎡当たり 1 ton 程度

作業室 F L ± 0

(4) 開 口

：搬入口寸法……………W 1,800mm×H 1,800mm 扉

：スリーブ、開口……………配管用、電気用、排気管用

(5) 換 気

換気扇（モーターの熱排気）を設置すること。

(6) 仕上げ仕様

：床……………モルタル

：壁、天井……………モルタル

(7) 電源供給

残灰盤を設置した場合、電源供給すること。

7. 作業員室

通常は休憩室、湯沸かし、便所、浴室などを設けます。火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

8. 倉 庫

火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

（小規模火葬場でも、4㎡以上を確保すること。）

9. 2階昇降階段

・火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

（小規模火葬場では、梯子の場合もある。）

・2階（排気装置室）と1階は、扉を設置して仕切りをする必要は特になし。

10. 台車清掃室

前室に扉を設置することにより、清掃は前室にて行うことができるため、台車清掃室のない火葬場が多い。

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) 台車清掃室の配置

台車清掃室は、作業室とは隣接し、炉前ホールよりキャリア台車が出入りできるように考慮すること。

(3) 基礎

：基礎荷重、精度

基礎……………なし（通常の事務所程度の荷重を見込むこと。）

炉前ホール F L ± 0

(4) 開口

：搬入口寸法……………W 1, 8 0 0 mm × H 1, 8 0 0 mm 扉

：スリーブ、開口……………配管用、電気用

(5) 換気

換気回数 1 5 回程度の換気を設置すること。

(6) 仕上げ仕様

：床……………モルタル

：壁……………モルタル

：天井……………天井張りは不要。（残灰配管メンテナンス）

11. 予備台車置場

- ・設けられない場合もある。
- ・火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。
- ：1 台スペース……………W 1, 5 0 0 mm × D 3, 5 0 0 mm
- ・キャリア台車の曲がりスペース半径 2. 5 m を見込むこと。

(1) 開口

：搬入口寸法……………W 1, 8 0 0 mm × H 1, 8 0 0 mm 扉

1 2. 非常用自家発電機室

(1) 工事範囲

- ・工事範囲は契約時の打合せにより決定しますが、計画段階では電気工事にて施工するよう考慮すること。

: 基礎.....建 : 電氣.....電

: 発電機本体……………電 : 商用切り替え……………電

- *非常用自家発電機を火葬炉設備事業者より納入する場合

商用 100V 及び 200V の電源は、非常用発電機の電源切換盤内に接続すること。

- *非常用自家発電機を火葬炉設備事業者より納入しない場合

商用、非常用 100V 及び 200V の電源は、火葬炉設備事業者系列盤内に接続すること。

(2) 配置

外部より搬入できるよう、また、冷却排気を考慮し外部に面すること。

(3) 基礎

: 基礎荷重、精度

発電機基礎……………m²当たり 2 ton 程度

作業室 F L ± 0

(4) 開口

: 搬入口寸法……………W1,800×H1,800mm 扉

: スリーブ、開口……………電気用、排ガス用、冷却排気用

(5) 換 気

ラジエーター冷却空気用取入口（ガラリ付）及び排気口（ガラリ付）を設けてください。

(6) 仕上げ仕様

: 床……………モルタル

: 壁、天井……………モルタル

(7) 発電機仕様

: 容量..... KVA : 燃料..... 灯油

: 冷却……………空冷、水冷 : 稼働炉数……………基

(5) 換 気

- : 線香や台車熱気があるため、換気回数 5 回/hr 以上の換気とすること。
- : 換気に際し、低騒音を考慮すること。
- : 炉内台車の熱気により、火災警報装置が作動することがないように考慮すること。

(6) 仕上げ仕様

- : 床……………通常石張りなど高級
- : 壁……………通常石張りなど高級
- : 天井……………通常吹き抜けなど高級

(7) 照 明

モニターTVを設置する場合は、100Lx 以上の明るさを考慮すること。

(8) 化粧扉仕様

- : 開閉方向……………左右開
- : 材質……………SUS304エッチングまたはアルミ鋳物
- : エンジン……………100V

15. 告別・収骨室

(1) 工事範囲

下記は炉工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) 基礎

: 基礎荷重、精度

基礎……………なし（通常の事務所程度の荷重を見込むこと。）

炉前ホールF L ± 0

- ・ 目地の大きいタイルは、キャリア台車の運転時に異常音の発生原因となる。
- ・ 自動扉の下部には溝を設置しないこと。

(3) 開口、スペース

: キャリア台車入口寸法……1,800×1,800以上

- ・ キャリア台車曲がりスペースを考慮すること。

(4) 換気

- ・ 線香や台車熱気があるため、換気回数5回/hr以上の換気とすること。
- ・ 換気に際し、低騒音を考慮すること。
- ・ 炉内台車の熱気により、火災警報装置が作動することがないように考慮すること。
- ・ 収骨室には、夏場を考慮し冷房設備を集中または簡易で設置できるよう考慮すること。

(5) 照明

モニターカメラを設置する場合は100Lx以上の明るさを考慮すること。

(6) 収骨室台車ガード

- ・ 収骨室には、遺族と高熱台車と直接触れることのないよう、ガードを設置する場合があるため、考慮すること。
- ・ ガードにはキャリア台車のガイドローラーの設置を考慮すること。

(7) 仕上げ仕様

- : 床……………通常石張りなど高級
- : 壁……………通常石張りなど高級
- : 天井……………高級

16. 玄関ホール

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) 基 礎

: 基礎荷重、精度

基礎……………なし（通常の事務所程度の荷重を見込むこと。）

炉前ホールFL±0

- ・ 目地の大きいタイルは、キャリア台車の運転時に異常音の発生原因となる。
- ・ 自動扉の下部には溝を設置しないこと。

(3) 開口、スペース

: キャリア台車入口寸法……………1,800×1,800以上

- ・ キャリア台車曲がりスペースを考慮すること。

(4) 仕上げ仕様

: 床……………通常石張りなど高級

: 壁……………通常石張りなど高級

: 天井……………高級

17. 車 寄 せ

(1) 工事範囲

下記は火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(2) 基 礎

: 基礎荷重、精度

基礎……………なし（通常の事務所程度の荷重を見込むこと。）

炉前ホールFL±0

- ・ 目地の大きいタイルは、キャリア台車の運転時に異常音の発生原因となる。
- ・ キャリア台車曲がりスペースを考慮すること。
- ・ 道路との段差は50mm以内とすること。（葬儀社との検討が必要）
- ・ 霊柩車より棺台車への転載方向を考慮すること。
（通常は横付けではなく、直角付けが作業がしやすくなる。）

(3) 仕上げ仕様

: 床……………通常石張りなど高級

: 壁……………通常石張りなど高級

: 天井……………通常高級

18. モニターカメラ

(1) 工事範圍

- ・電気工事にて施工するよう考慮すること

: カメラ……………電 : テレビモニター……電

: 埋設配管……………電

*逆光、視界、照明を考慮すること。

(2) 設置場所

多くの火葬場で、下記の場所に設置される。

：排気筒 ：炉前ホール ：玄関ホール

: 告別・収骨室

19. 殘灰庫

火葬炉設備工事範囲外として、建築設計にて考慮すること。

(1 炉当たり 2 ~ 4 m²)

20. 物資搬入ルート

作業室及び機械室等へ到達するまでの外部搬入道路の確保とレッカー作業に支障がないよう配慮すること。

2 1. 仮設用電源及び水について

- ・仮設用電源は工事敷地内までの引き込みは建築工事にて施工すること。

: 火葬炉設備事業者の電気使用量…………… 22 Kw (照明用、電動工具用)

- ・仮設用水は、工事敷地内までの引き込みは建築工事にて施工すること。

：火葬炉設備事業者の水使用量 500 L×15～20日間

*電気使用量、水使用量はあくまでも参考値であり、火葬炉企業によって異なることに留意すること。